

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回茨木市総合教育会議
開催日時	令和6年10月31日(木) (午前・午後) 10時30分 開会 (午前・午後) 12時10分 閉会
開催場所	茨木市合同庁舎 6階会議室
議長	福岡 洋一(茨木市長)
出席者	福岡 洋一(茨木市長) 岡田 祐一(教育長)、前川 佳之(教育長職務代理者)、 堀村 佳奈子(教育委員)、水上 明美(教育委員) 城谷 敬子(教育委員)【6名 敬称略】
欠席者	なし
事務局職員	足立企画財政部長、山寄こども育成部長、辻田教育総務部長、青木学校教育部長、岩崎企画財政部次長、梶西学校教育部次長、泰田教育政策課長、山内施設課長、荒木施設課参事、古川教育政策課課長代理、岡本政策企画課係長【11名】
開催形態	公開
議題(案件)	(1) 開 会 (2) 市長あいさつ (3) 報告案件 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策評価結果について (4) 協議案件 1 茨木っ子プランネクスト5.0の改定について 2 部活動のあり方について 3 水泳授業のあり方について (5) 閉 会
配布資料	(1) 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策評価結果 (2) 茨木っ子プランネクスト5.0の改定について (3) 部活動のあり方について (4) 水泳授業のあり方について
傍聴者	2人

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>1 開会 ただ今より「令和6年度 第1回茨木市総合教育会議」を開催する。 本日の案件は、報告案件として「茨木市教育大綱の体系に沿った、第5次茨木市総合計画における施策評価結果」と、協議案件として「茨木っ子プランネクスト5.0の改定について」、「部活動のあり方について」及び「水泳授業のあり方について」である。 本日の傍聴者は2名であり、会議は原則公開のため、入室していただいている。 会議の進行にあたっては、総合教育会議運営要綱第3に基づき、福岡市長に務めていただく。</p>
福岡市長	<p>2 市長あいさつ 予算を所管する立場として、日常から、教育長や事務方職員とは意見交換や相互理解は進んでいる。本日は「総合教育会議」という機会を活用して、様々なテーマのもとで意見をいただくことをとおして、市長部局と教育委員会の相互理解をさらに深め、こどもたちのための施策をさらに推進していきたいと考えている。本日は協議案件として大きな予算やこどもたちの安全に関する課題も含む3テーマを挙げており、忌憚のないご意見をいただければと思っている。</p>
福岡市長	<p>3 茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策評価結果について（報告案件） 「茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策評価結果について」、事務局から説明を求める。</p>
事務局	<p>【茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策評価結果について説明】</p>
福岡市長	<p>施策評価結果について、どのテーマも重要ではあるが、とりわけ各委員が関心が深いテーマをピックアップしてご意見等をお伺いしたい。</p>
水上委員	<p>どのテーマも重要ではあるが、「施策2『生きる力』を育む教育を推進する」について、現在の「茨木っ子プラン」の中でも非認知能力の育成を重要視しており、こどもたちの心と体をしっかり育てることで、社会の先行きが不確かな中であっても、こどもたちが自分で意思を持ち、未来を切り</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
堀村委員	<p>開く力の必要性をひしひしと感じている。</p> <p>まず、重要な非認知能力の育成について、教育現場を訪問し、幼稚園、小学校、中学校で一貫したテーマとして取組が進んでいることを実感した。特に、中学校では、非認知能力を自分のものとして受け入れ、教師の関与がなくても生徒が主体的に育成に取り組む姿も見られるなど、幼稚園から積み上げてきたものの効果が表れてきており、幼稚園では、キャリアパスポートに園児が自らの体験を生き生きと絵で表現し、振り返りができるようになっている姿も見られた。キャリアパスポートは様式も含めて使いやすいようにどんどん進化している。今後も継続して「生きる力」を育む取組を進めて行ければと思う。</p> <p>一方で、小学校における不登校が増加傾向にあることは懸念している。原因に応じた様々な対応が必要であるが、ヤングケアラー、虐待等の家庭の事情で不登校になっている場合にもしっかりとアプローチできるよう市長部局との連携が必要である。</p>
城谷委員	<p>別の観点から、生涯学習も大事にしていけたらと思う。</p> <p>学校教育は、義務教育だと15歳まで、高校大学まで含めても20歳過ぎまでであるが、人間は生涯学びが必要であるし、そのような勉強により人生を見直し変化させたり自らの人生をより自分らしく生きる機会としたりすることができる。医師としては、例えば健康に問題を抱えている方はストレスが非常に強い方が多いが、ストレス対処法は学ぶ機会があまりないなど課題を感じることもあり、大人に対しても様々な教育機会が豊富に用意されていると良いと思う。</p>
前川委員	<p>関心があるのは非認知能力育成だが、次の議題とも重なるので、『『健やかな体』の育成』について言及する。</p> <p>従来から学校給食における地元食材の使用促進の取組は行われており、地元農家やJAとの連携等により取組が前進している点は評価しているが、中学校給食が始まるにあたり量の課題も出てくるため、さらに、遊休農地対策の実施等により生産量を増加させ給食に活用していくこともできないかと考えている。この取組については市長部局における取組になるので推進していただくようお願いしたい。</p>
福岡市長	<p>教育長は立場上ピックアップしにくいと思うので、また個別の案件の際にお伺いすることにし、私からも気になる点についても触れておきたい。</p> <p>「青少年の体験活動の充実」の取組が、こども会加入率低下を抑制する</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>必要があるため「b」評価となっているが、こども会加入率抑制の取組について数字上の結果があまり出ない中で、こども会に加入していないこどもが非常に多いという視点で取組を進めることが重要ではないかと考える。具体的な実施方法は地域ごとに運営の仕方がある中ではあるが、公民館活動や地域行事なども含めて、こども会に加入していないこどもにも情報が行き届く一助となるように他地域の事例共有などが進めばと思っているので、教育委員会と連携して取組をおこなえたらと思っている。</p>
事務局	<p>4 (1) 茨木っ子プランネクスト 5.0 の改定について (協議案件) 次に、協議案件の「茨木っ子プランネクスト 5.0 の改定について」、事務局から説明を求める。</p> <p>【茨木っ子プランネクスト 5.0 の改定について説明】</p>
福岡市長	<p>茨木っ子プランネクスト 5.0 の改定について、教育委員会でも議論が深まっている中、先ほどの議題と重複しても良いので、議論にあたり力点を置かれているところなどを各委員に伺いたい。</p>
水上委員	<p>茨木っ子プランネクスト 5.0 について、一定の方向性に基づいて取組を継続している点は評価に値し、特に、私立の幼稚園や保育所も含めて保幼小連携が進んでいることは、他市では見られない誇るべき事例であり、継続して進めていただきたい。</p> <p>一方で、学力テストにおいて低位層がやや増加している点について、学習意欲が低下しているこどもたちにサポートが行き届いていないと感じるところでもあるので、人員配置が難しい中ではあるが、1 人でも多くの教員や指導者を配置し、きめ細かな支援につなげていただければと思う。</p> <p>また、食育について、さきほど前川委員から地元食材を使った給食の充実について言及があったが、こどもたちが食べることを充実させ、食べることに関心を持つことが体づくりにつながると思うので、例えば、栄養教諭が配置されている学校とその周囲の学校も巻き込んだ取組を行うなど、食育をより一層推進できるよう工夫できたらと思う。</p>
福岡市長	<p>人員配置に関連して、近年、教員の若年化が進んでいる点についても見解を伺いたい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
水上委員	<p>体力面で元気であることや新たな感覚を持っていることは良い面だと思う。若い教員が良い面を活かして活躍するとともに経験を積み成長していくためには、経験を積む場や経験が深い教員との相互理解が必要であり、教員同士のコミュニケーションや研修などの機会が充実するよう教育委員会としてもサポートが必要である。</p>
福岡市長	<p>食育について、中学校給食無償化するにあたり、例えば「痩せたい」のように食事よりも優先したい理由のためになかなか食べてもらえずに結果的に廃棄されることを危惧している。栄養バランスや必要なカロリーを考慮して準備をしており、食べることの大切さを伝え、こどもたちにしっかり食べてもらえるように教育委員会と連携して取り組んでいきたい。</p>
堀村委員	<p>不登校対策の充実について、家庭の事情で学校に行けないこともあるが、特に学力低位層にあっては、授業が分からず学校自体が面白くないことも理由としてあるように思われることから、スクールサポーター等の人材をできるだけ確保し、一人ひとりに寄り添った支援を充実させることが重要であるので市長部局における取組もお願いしたい。</p> <p>次に、1人1台端末が進むなど教育における ICT 環境の充実が進むにつれ、ネットリテラシー教育が重要になる。放課後の過ごし方も、昔は外で過ごすことが多かったが、今はオンラインゲームや動画を楽しむなど家の中で完結することが増えており、ネットとの付き合い方について家庭での指導だけにとどまらず学校でも指導していくことが重要である。このことは、体力や体を動かす機会の低下にも影響していると思うので、今後対応が必要だと思われる。</p> <p>また、体験格差も問題となっており、学校は機会を提供する重要な主体になるので、校外学習や宿泊体験など、野外活動センターなども活用しながら充実させ、こどもたちに現実の体験を多くしてもらいたい。</p>
福岡市長	<p>不登校対策は難しいテーマであり、学校に行かない選択をしたこどもがそれぞれに合う居場所・行き場所を持てるように、教育委員会と市長部局がそれぞれに協力して、居場所づくりに取り組むべきものであると認識している。こどもたちが、将来的に社会的自立ができるステップとなるような居場所づくりや体験の機会の確保を進めたい。</p>
城谷委員	<p>茨木っ子プランネクストのこれまでの施策、取組について、学力や非認知能力が向上しているなど結果も出ており評価している。</p> <p>その中でも特に、発達障害をもつこどもへの対応に注力していきたいと</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	<p>考えている。</p> <p>発達障害が不登校の要因になっているケースもあるし、発達障害を持つこどもの割合も年々増加している中で、どのように接していくべきかを模索していく必要がある。</p> <p>例えば、発達障害があるからこそその視点が個性となり社会に貢献しているようなケースもある。こどもも保護者も含めて、それぞれの個性に寄り添った支援を行い、個性を活かして将来生きていけるようにどのように取り組んでいくかを考えていく必要がある。</p> <p>発達障害を持つこどもに関して、就学前からの療育体制の構築が重要であると捉えており、個性を尊重しながら学校生活に馴染めるよう市長部局としても就学援助を行っていきたい。</p>
前川委員	<p>最重点取組からお願いしたいこととして3点取り上げたい。</p> <p>1点目は、非認知能力の育成について、外部の先生も含めて高く評価されている。非認知能力の育成は学力向上を主目的としたものではないが、非認知能力の育成が、勉強への意欲の向上や自分の将来を積極的に考えるきっかけづくりにつながり、結果的に学力向上にもプラスの作用を果たし、本市の学力の高さにもつながっていると思う。非認知能力と学力の相関関係を検証することは難しいが、特に低学年や就学前のこどもを持つ保護者にも積極的に非認知能力の育成の重要性をPRしてもらいたい。</p> <p>2点目として「ともに学びともに育つ教育を進める」のうち、「通常の学級における一人ひとりの子どもの発達や特性を理解した指導と支援」があるが、この点については教員の負担が非常に大きい部分になる。この点については、支援ソフトなどもあるという話もあるので、導入に向けた検討を行って欲しい。</p> <p>3点目に、いじめ・不登校対策の不登校対策について、不登校の要因としては家庭環境の問題が大きいことも多く、学校だけの取組には限界があることから、専門家を交えたケース会議の実施など市長部局、特に福祉関係部局との連携強化を進めていただきたい。</p>
福岡市長	<p>1点目の非認知能力について、市長としても様々な場面で非認知能力の育成について説明することがあり多くの方に賛同いただける。非認知能力は学ぶ力の育成でもあり、生涯をとおして学んでいく力の育成にもつながる。教育委員会で良いテーマ設定を共有して取組を進めていただいていると思う。また、私立も含めて就学前から非認知能力について保護者に共有されているケースも把握しており、着実に取組が進んでいると捉えている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
教育長	<p>2点目の、特性に応じた支援については、教育委員会でも検討を進めていただいております、市長部局としても勉強を深めていきたいと思う。</p> <p>3点目の不登校については、教育現場では家庭に立ち入り切れないことや先生方の負担が大きいことは把握しており、家庭支援は市長部局の福祉の分野で対応すべきと捉えている。教育現場で抱えることなく市長部局と教育委員会が連携して、また柔軟に支援を行っていただけるよう、情報共有の場を整え、より一層連携を強化していきたい。</p> <p>現在、5年計画の最終年度の総括しているところで非認知能力育成の成果についてもよく聞かれる。それはこれから見えてくるものであると思うが、キャリアパスポートを柱に、私立も含めて保育園や幼稚園から取組を進め、こどもたちに育みたい非認知能力の名称について学校名を冠したネーミングのもとで取組を進める学校もあるなど教育現場では一貫した取組が根付いており、こどもたちが社会に出たときに力がついていると期待している。</p> <p>一方で、小学校で学力差が広がっていることや不登校の課題がある。授業が分からないことが不登校の要因になっていることもあり、授業力を向上させることで不登校を一定程度抑制することができると思う。また、先生の一言が、こどもにとって助けにもなるし逆効果になることもある。先生の授業力やこどもとの関わり方を全体的に底上げするために研修などに力を入れていくべく、次期プランでも位置付けていくべきと考えている。非認知能力よりも学力という意見もあるが、「継続は力なり」との考えのもと、非認知能力を中心に学力向上と両輪で取組を進めていきたい。</p> <p>また、体験格差については、経済的格差が体験格差になり、学習の場の選択も経済的に恵まれている方が優位になっている現状の中で、すべてのこどもたちに体験の機会を提供することは公立の使命であり、その中でこどもたちが、将来につながるものを自分で勝ち取ってもらえるよう取組を進めたいと考えており、次期プランでも位置付けたい。</p> <p>こどもたちの思いやりや困難への対処力といった社会で生き抜く上で重要な力は、集団の関わりの中で育つ部分が大いと思うので、少しでも不登校を減らし、集団の中で育つ環境を整えたい。</p> <p>一方で、どうしても来られないこどもも居るので、その場合は選択肢を増やし、必ずどこかにつながっているようにする必要があり、多様性を認める学校なども含めて次期プランで位置付けていきたい。</p> <p>それぞれのこどもたちが幸せを勝ち取れるような環境を作っていくために、市長部局、特に福祉部局と連携して取組を進めていきたい。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	<p>茨木っ子プランは非常に評判が良い。学習指導要領の中身が多様化し、こどもも先生もやるべきことが増えている中であるが、次期プランへも大きな期待感を抱いている。</p>
福岡市長	<p>4 (2) 部活動のあり方について (協議案件)</p> <p>次に、協議案件の「部活動のあり方について」、どのようにお考えかご意見をいただきたい。</p>
水上委員	<p>昔は、経験豊富な顧問がいたが、時代が進むにつれて徐々に、顧問をできる先生や部活動自体も減ってきており、現状は、生徒がやりたい部活がなかったり、経験を持つ顧問がいないこともあったりし、生徒や保護者からも対応への要望の声もある。</p> <p>個人でまたは仲間と一緒に頑張ることができる部活動の教育的効果は大きく、また、長く付き合える友達もできることもあり、生徒たちには部活動を経験してほしいと考えている。</p> <p>一方で、指導者の問題、特に休日対応や経験がない中での顧問の負担は先生の価値観や働き方が変わる中で大きな負担になっており、地域の指導者とうまくマッチングすれば負担軽減になると思われる。</p> <p>課題は多くあるが、茨木市では外部指導者確保に向けての取組や予算措置もされているので、生徒たちの経験の機会を生み出しより良い方向に進んでいけるように、学校現場、保護者、生徒の声を踏まえつつ、少しずつ丁寧に先のことを考えつつ検討していく必要がある。</p>
堀村委員	<p>自身の経験としても部活動をとおして今でもつながる友達や先生に出会えるなど今につながるものを得ることができ、部活動の意義は大きいと思う。また、中学校時代に熱心に部活動に取り組むことで学校へ行く理由にもなり、いじめや不登校対策、居場所づくりにも大きな効果があるので大切にしていきたい。</p> <p>一方で、教員の負担や生徒数の減少による部活動維持の難しさを踏まえて、部活動を持続可能なものとするために、時代に応じて移行するべきところを考える時が来ていると思う。例えば、学校単位だけでなく地域への移行も考えられるが、責任の所在や費用負担などの問題の整理が必要で、金銭面での負担が生じることもあるので、補助金等の支援も検討してもらいたい。</p>
城谷委員	<p>教育委員に就任する前に、数年間、長時間労働や高ストレスに悩む教職</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
前川委員	<p>員の面談を行ってきたが、負担の要因として時間外の部活動指導が多くを占めていた。長時間労働の内訳は部活動が多く、確かに、部活動指導が働き甲斐となっている先生もいるが、経験や知識がない部活でも責任問題に伴って顧問を引き受けているケースもある。また、自分の時間の確保、例えばパートナーやこどもとの時間や親の介護の時間の確保との両立に苦慮し疲弊しているケースも多かった。</p> <p>部活動は学校教育の中で大切な意味合いを持つが、指導する先生の大きな負担の上で成り立っていることはあまり認識されておらず、負担の上で成り立っている現状を改善していく必要がある。先生が心身ともに健康でやりがいを持って教育に当たっていることが、教育の充実にもつながるので長時間労働対策は必要である。</p> <p>茨木市でも、部活動指導員、指導者配置を行っており、予算措置も含めて今後も継続して取組を進めてほしい。</p> <p>部活動の意義については、他委員と同様に大切なものと考えており、自分自身としても大切な仲間と出会い貴重な経験をした。</p> <p>今後の展開については、地域移行に向けた取組は簡単には進まないと思うので、まずは練習時間等の見直しや地域連携の拡充といった、あり方の見直しを徹底すべきである。</p> <p>部活動への支援については、特に、部活動指導員、指導者の充実をお願いしたいところである。また、教職員の負担軽減に向け、部活動の休養日や計画的に一定の目途をつけたスケジュールの設定や、校長による管理も重要である。</p>
教育長	<p>現在、約8割の生徒が部活動に入っており、その活動を保障していくことと教員の負担軽減を両立させていく必要がある。</p> <p>急な変化はできないので、受皿、費用、指導者、保護者負担などの課題を考慮し、一つひとつの種目から年数をかけてしっかり枠組みを作っていくきたい。教員の負担軽減については、全国的にも平日の対応は進んでおらず、土日の指導が時間外勤務の多くを占めているので、土日の対応からはじめ、その後平日の対応も考慮していきたい。</p> <p>全国的な動きも踏まえつつ、持続的な部活動の在り方に向け取組を進めていきたいと思う。</p>
福岡市長	<p>先の議題で体験格差の話もあったが、部活動においても経済的理由からやりたい部活ができないなど格差が生じているケースもあると思う。部活動のあり方について今後も議論を深めていきたいと考えている。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
福岡市長	<p>4 (3) 水泳指導のあり方について（協議案件）</p> <p>次に、協議案件の「水泳指導のあり方について」、水泳授業に関して、スペース、費用、使用期間を踏まえた効率性、水泳授業の意義、近代水泳発祥の地としてのこれまでの取組等を踏まえ、今後についてどう捉えているかについてご意見をいただきたい。</p>
水上委員	<p>水泳は、全身運動で体力向上にも非常に効果的であること、着衣水泳の授業なども含めて水の危険から命を守る重要な意義があることなどから、学校での水泳の授業は非常に大切で無くせないと思う。</p> <p>また、これまでの茨木市の取組を踏まえ、楽しく水に親しむ機会の確保や小プール・大プールがあることからの子どもたちの成長や目標の気持ちなども良い経験につながると考える。</p> <p>議題の提案を受け、効率性や暑さ対策について考慮する時期にあると考えるが、これらの意義を踏まえると、水泳は体育の授業の一環として必要であり学校のプールを維持する方向で検討していただきたい。</p>
堀村委員	<p>水泳授業についてはこのまま続けていただきたいと考えている。</p> <p>保護者の視点では、他の陸上でやるスポーツと比較してプールがないと実施できない水泳はハードルが高く、学校の授業として一律機会を確保する価値があると思う。また、水泳授業は、多くの生徒が水難事故で亡くなったことをきっかけに指導が広まった経過があるなど、命を守るという目的が大きい。子どもたちが成長しても、水から自分の身を守れることは大切であると思う。</p> <p>一方で、費用や暑さ対策の問題はあるので、実施時期を変更するなど、授業のあり方を検討していく必要はあると思う。</p> <p>加えて、暑さの影響で開催できなかったところもあるが、夏休みのプール指導は、学校に行き友達と会う機会にもなっており、できるだけ開催して機会を確保出来たらと思う。</p>
城谷委員	<p>自分自身水泳の授業を受け泳ぐことができ、良かったと思っている。</p> <p>医師の視点からは、健康維持・増進のための運動として、関節への負荷が小さい水泳を勧めることも多く、生涯の健康を守る上で泳げることは大きな価値がある。</p> <p>また、命を守る観点からは、以前に韓国で発生したセウォル号の事故では、韓国では水泳授業が重点的にされておらず、水が怖い生徒が多く、救命胴衣はあるが、海に飛び込むことができなかったことも多くの犠牲者が出た要因になったと認識している。ライフセービングの面からも水泳の授</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
前川委員	<p>業は非常に重要である。</p> <p>教員採用試験に水泳が無くなったことや暑さで実施できないことなど課題はあるが、茨木市の伝統的な水泳授業を継続していかれたらと思う。</p> <p>学校における水泳指導については引き続きお願いしたい。</p> <p>ただ、効率性の観点の問題提起は一定理解でき、中学校は部活の関係でプールの廃止は難しいと思うが、小学校については、例えば大規模改修、中心市街地、業務委託が可能な事業者が存在するなど条件が揃えば、改修費及び維持費と委託費を比較考慮することも可能性として考えられる。</p> <p>現状はこのような条件に当てはまる例は無いと聞いているので、学校プールにおける水泳授業については当面継続していただきたい。</p>
教育長	<p>水泳授業の回数確保については、暑さを踏まえて時期をずらすなどカリキュラムを変更すれば対応が可能だと考える。</p> <p>費用対効果については、モデル校を選定し検証することも考えられるが、すべての小学校で対応が可能ではない。</p> <p>また、コロナ禍で水泳の授業があまりできなかった影響で、泳げないこどもが増えているとの状況も把握しており、こどもの成長の過程で水泳の授業は大切なので検討していきたい。</p>
福岡市長	<p>水泳について今すぐ何かを進めていくというわけではなく、議論を深めていくことが大切だと考えている。このテーマに限らず様々な分野で、今後も議論を深め、こどもたちのために頑張っていきたいと考えている。</p>
事務局	<p>5 閉会</p> <p>これをもって、第1回総合教育会議を終了する。</p>